沙羅の樹文庫だより

NO. 205（24 年 1 月号）

太陽のほとり

石垣　りん

太陽
　天に掘られた　光の井戸。
私たち
　宇宙の片隅で　輪になって
　　たったひとつの　井戸を囲んで
　　暮らします。
世界中　どこにいても
　太陽のほとり。
　　みんな　いちにち　まいにち
　　汲み上げる
　　深い空の底から
　　長い歴史の奥から
　　汲んでも　汲んでも　光
　　天の井戸。
　（日本の里には　元日に　若水を汲むという
　　美しい言葉が　ありました）
昔ながらの
　つるべの音が　聞こえます。
胸に手を当てて　聞きましょう
　生きている　いのちの鼓動
　　若水を汲み上げる　その音を。
新年の光
　満ち　あふれる　朝です。

★24 年も予約制で開館★

第３日曜日と前日の土曜日（６月迄）

1 月 20 日（土）、21 日（日）
2 月 17 日（土）、18 日（日）
3 月 16 日（土）、17 日（日）
4 月 20 日（土）、21 日（日）
5 月 18 日（土）、19 日（日）

❤若葉のころのおはなし会❤

５月１８、１９日予定

ゲスト（町田語り手の会）を迎えて

6 月 15 日（土）、16 日（日）：最終貸出

７月の開館日は第２。13 日（土）、14 日（日）、15 日（月：海の日祝日）
最終返却はこの３日の間に必ずお願いいたします。

★開館（閉館）記念おはなし会★

７月１４日（土）午後：大きい人たちに
１５日（日）午前：小さい人たちに

・・・・・・・・・

文庫・開館時間：土曜日 13：00～17:00
日曜日 10：00～15:00

子どものための読み聞かせ・おはなし会
文庫のある日曜日１０：３０～１１：００

おはなし沙羅・おはなし勉強会
文庫のある土曜日１０：３０～１２：３０

沙羅の樹文庫
☎0557-51-3737（090-6039-3782）

💗沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫💗
☎0557-54-1910
開室日：水曜日 13:00～15:00
　　：日曜日 10:00～15:00

文庫あれこれ

◆穏やかに明けた新年に、大変な自然災害と大きな事故が起きると誰が想像したでしょう。◆みなさんのお知り合いも被害に遭われたのでは。◆能登の突さき、狼煙に行ったのは、まだ連れ合いと結婚する前でした。私たち夫婦の懐かしい場所です。その後も、母を連れてランプの宿に行きました。みんな珠洲市。◆その珠洲市にちいさな（そして大きな!）冊子『若者、ガマフヤーと語る』（ガマフヤー：戦争で沖縄の壕の中で亡くなった方の遺骨収集される人）を出したお嬢さんＮさんが住んでいて、彼女を知る友人たちはとても心配しました（無事だけ確認が取れて）。――米軍基地のため、大浦湾埋立工事は自然破壊だけでなく、先の大戦で亡くなった方たちの眠る土壌を運んで埋めるという政府の無謀!――◆段々に新聞テレビで知らされる各地の人々の被災の様子に言葉もありません。能登ばかりと思っていたら、新潟の、文庫だよりでお馴染みのＹさんのお宅の付近や道路も液状化ですごいことになっていると。◆自然災害は、いつ、どこで起きても不思議でない日本に暮らしている私たちにできることは小さいけれど、何とか支援できたらと思います。◆左下のダイヤモンド富士は元日の写真（テレビ山梨）、右上の富士は６日、富士市のＭさんが撮って送ってくれました。変わらぬ勇壮な姿に心シャキッとしますね。◆今月も少し、新刊入れました。しまい込んだ文庫、エッセイ等、少し出してきました。あと７ヶ月沙羅の樹文庫を楽しんでください。

（西村）

春を待つ　木瓜の花

あるふぁ の 会　～高知こどもの図書館と共に～　　森尾　宏子

2023 年 11 月 15 日「あるふぁの会」は、課題図書『図書館がくれた宝物』（ケイト・アルバス著　櫛田理絵訳　徳間書店 2023）をもって終わりました。

39 年間に取り上げた本のリストをそれぞれに手渡し、これ迄に積みたててきた会費はすべて高知こどもの図書館に寄付しました。

思い返せば、1979 年 1 月にスタートした高知県立図書館の「子どもの本の読書会」を続けるうちに、もっと深く学びたいと意気込んで 1984 年 11 月にこの会を立ちあげたのでした。目的を「こどもの本を読むことによって、”かつてこどもだったことを忘れずに、砂漠の中に井戸を探し” しかも現実の世界の愚かしさと美しさを見すえる目を育てていくことをめざします。」と、高らかに掲げました。

（写真：清水さんを囲んで。前列右端：森尾さん）

1987 年 11 月、ついで 1996 年 6 月に清水眞砂子さんをお招きして講演会を開きました。

学ぶうち仲間たちは、「高知こども劇場」の読書会や「こどもの本と未来を語る会」「こどもの本を語る高知大会」「高知おはなしの会」「高知こどもの文化応援隊」など、次々と活動を広げていきました。

そのうねりが大きく実って、ついに 1999 年 12 月に高知こどもの図書館を開館させたのです。

本は読まねばならない。重複して所属する会の会議は続く。私は自営業で年中無休という酒屋の妻。多忙な中での3人の子育てと日々のてんやわんや。しかしこの歳月が、私の人生を何より豊かにしてくれたのだと思います。

県立図書館から、新しくできたこどもの図書館に会場を移してからも、「あるふぁの会」は2か月に1度、会費 500 円でずっと続けてきました。おかげでこどもの図書館がピンチの時には役立ちましたし、講演会を図書館との共催にすることもできました。ここ数年の参加者は、40 代～80 代の 10 人足らずでしたが、本について語れる大切な場所でした。

『昔話の深層』（福音館書店）、『ゲド戦記 全6巻』（岩波書店）の何度かの読み直し、グラフィック・ノベル『MARCH』三部作（岩波書店）などは、仲間がいてこそ読めたと思います。

偶然、こどもの図書館でお会いした西村さんとのご縁でこのような場をいただき、驚いています。人との出会いは、何を生み出すかわかりませんね。

高知こどもの図書館入り口

・・・・・・・

★高知こどもの図書館は、NPO 法人です。高知県立公文書館の1階にあります。23 年 2 月号にこども図書館のことや写真を載せましたので関心のある方、遡ってみてください。

森尾さん、西村、大原さん

★大原寿美初代館長（写真右）は、お会いしたあと4月に、伊藤忠財団から、22 年度子ども文庫功労賞を受賞されました。（沙羅の樹文庫も 21 年度、分館図書費用などを伊藤忠財団から授与）

★そして縁はどこまでも繋がっています！ 左下の清水眞砂子さんを囲んだ写真の中に、なんと、私の友人の若かりし頃が（今も若いけれど）！ 文庫だよりに本の感想文を書いてくれ、毎夏、海の日のおはなし会に遠路盛岡から来て語ってくれた澤口杜志さんがいました。

★森尾さんが文中、揚げた本は、文庫に全部あります。
図書館がくれた宝物、昔話の深層、ゲド戦記、MARCH。
ぜひみなさんも手にとってお読みください。

24.1 月に入る子どもの本

絵　本

『ねずみのひっこし』（あまんきみこ文 岡田千晶絵　福音館書店 2023）★「こどものとも」no.813　ID14010

『なんか　ひとり　おおくない?』（うめはらまんな作 BL 出版 2023）　ID14017

以上２冊宮﨑久子さんより寄贈

『ちいさなふたりのいえさがし』（たかおゆうこさく　福音館書店 2020）　ID14012

『ごちそうごよみ』（谷山彩子作　小学館 2023）　ID14013

読みもの

『龍の笛―犀星童話集』（室生州々子編　亀鳴屋 2023）　ID14014

『グッゲンハイムの謎』（ロビン・スティーヴンス著　シヴォーン・ダウド原案　越前敏弥訳　東京創元社 2023）　ID14015

『きみのお金は誰のため―ボスが教えてくれた「お金の謎」と「社会のしくみ」』（田内学著　東洋経済新聞社 2023）
ID14016

24.1 月に入る大人の本

フィクション

『神と黒蟹県』（絲山秋子著　文藝春秋 2023）
ID19185

『可燃物』（米澤穂信著　文藝春秋 2023）
ID19186

『続きと始まり』（柴崎友香著　集英社 2023）
ID19187

『パッキパキ北京』（綿矢りさ著 集英社 2023）
ID19188

『アリアドネの声』（井上真偽著　幻冬舎 2023）
ID19189

『香港陥落』（松浦寿輝著　講談社 2023）
ID19194

『なお、赫々たれ―立花宗茂残照』（羽鳥好之著　早川書房 2023）　ID19179

『戦国武将殿　東日本編』（今村翔吾著　PHP 研究所 2023）　ID19191

『戦国武将殿　西日本編』（今村翔吾著　PHP 研究所 2023）　ID19192

『破果』（ク・ビョンモ著　小山内園子訳　岩波書店 2023）　ID19190

エッセイほか

『その世とこの世』（谷川俊太郎×ブレイディみかこ著　岩波書店 2023）　ID19177

『悲しみをみつめて（C.S.ルイス宗教著作集）』（西村徹訳　新教出版社 2023）　ID19178

『父が息子に語る壮大かつ圧倒的に面白い哲学の書』（スコット・ハーショヴィッツ著　御立英史訳　ダイヤモンド社 2023）　ID19193

『一人で生きて 99 歳』（三條三輪著　幻冬舎 2023）　ID19195

『ぶつよ!―奇跡の焼き鳥屋「鳥重」名物お母さんの元気が出る言葉』（東山とし子著　講談社 2012）★寄贈本　ID19180

文　庫

『青い壺』（有吉佐和子著　文春文庫 2011）
ID19181

『江戸奇談怪談集』（須永朝彦編訳　ちくま学芸文庫 2012）　ID19182

『サン=フォリアン教会の首吊り男　新訳版』（ジョルジュ・シムノン著　伊禮規与美訳　ハヤカワ文庫 2023）　ID19183

『生贄の門』（マネル・ロウレイロ著　宮﨑真紀訳　新潮文庫 2023）　ID19184

信州散歩　～「安曇野」を読む～荻野 まさる

10 年程前に東京より少し遅い春の松本を訪れた。

天守閣を囲むお濠沿い桜並木が美しく咲いている。

その淡い桜色の余韻と城下町の醸し出す雰囲気に浸り少し散歩をすると軒先に書籍を並べる古書屋が。普段の私にはとんと縁のない物ばかり漢文書籍が多い。店の中を眺めると背表紙「安曇野」が目に入った。これなら読める。手に取り書き出しを読んでいると店主が出てきて松本の事「安曇野」の事やら話は尽きない。松本土産に第１部を購入した。そして、2023 年春沙羅の樹文庫で再会する。

全５巻。明治 30 年代から太平洋戦争後までの間、相馬愛蔵と良夫妻その家族を軸に大勢の人々が生き生きと描写されている。愛蔵のいる信州穂高の寒村に仙台藩士ゆかりの家からオルガンと油絵１枚を持ち嫁ぐ良。ここのくだりがサブリミナル効果として私の中に残ってゆく。Funkstory。

世界規模の変動は日本を揺さぶる。武士による明治維新。革命という地殻変動はそれまで階級社会に埋もれていた才能を覚醒させ一気に噴火する。その赤々と燃える溶岩は以後、圧倒的な存在となる。

社会、文化、思想。田中正造、木下尚江、岡田虎二郎、大杉栄、伊藤野枝、エロシェンコ、ビハリボーズ、荻原守衛。

荻原守衛、号は碌山。パリ留学中、ロダンの作品に強く刺激され彫刻にすすむ。読み進めるなか 2023 年秋、安曇野にある碌山美術館に行く。

守衛の生涯と作品にはすでに境界線はなく愛とその苦悩から削り出される。彫刻の前に立たずむとかなわぬ愛と優しさが伝わる。読書も美術館もある意味Powerが必要だ。守衛の作品で少々疲れを感じたが友人でもある高村光太郎の作品もありそれは威風堂々としていて元気が戻ってきた。作風は違う親友同士どんな会話をしたのだろうか。

安曇野から北アルプスを臨む

信州から伊豆に戻り５巻を振り返る。心が動かされた事を頭でまとめるのは難しかったが良い機会でした。沙羅の樹文庫さんに感謝します。

『安曇野　１～５部』（臼井吉見著　筑摩摩房）

文庫在中

徒然なるままに…本あれこれ…（さ・ら）

📕荻野さん夫妻、まだ会員になって２年にはなっていないだろう。しかし、読書家である。また、新刊ではなく、長い時間をかけて借りる本を探していかれる。今回は奥さんにお願いした。左記の『安曇野』全巻は、たしか、文庫始まって当初、どなたかに頂いた。読んでくれる人がいて幸せな本!! 📕縁が薄かった私の父の故郷は諏訪で、北杜夫や辻邦生と同じく松高卒で、１０年ほど前、下諏訪の祖先の墓参りや松本城、松高を一人旅したので、懐かしい。これも閉館したら読みたい本である&安曇野から北アルプスを眺めてみたい。📕今月入れた可愛いサイズの子どもの本『龍の笛―犀星童話集』は、新聞の端にちょこっと出版事項が載っていたのを、発行所の金沢・亀鳴屋に注文して手に入れた。お孫さんの編集だ。犀星の子どもへの愛情が満ち溢れるちいさな物語。もう少し幼い孫がいたら、読んでやりたい（残念ながら我が孫たちはその年を遠にすぎて）。Ｈさんは、老人グループに読んだそうな。📕吉野弘作「二人が睦まじくいるためには愚かでいるほうがいい」で始まる‹祝婚歌›は、昔、友人が教えてくれた時から私の好きな詩、心がけたい詩であるが、今月入れた絵本の一つ、『なんか　ひとり　おおくない?』の作者は吉野さんのお嬢さん・うめはらまんなさん。懐かしい絵と共に、今座敷童の話。📕知らなかった。C.S.ルイスにこんな本『悲しみをみつめて（C.S.ルイス宗教著作集）』があるとは!!📕暮に親しい友２人のご主人が続けて亡くなった。しょっちゅう連れ合いとバトルしている私は、友の言葉「二人は一人に勝る」を改めて肝に銘じた。『その世とこの世』はどんな対談だろう。そこにあの世はないのだろうか。間もなく忘れえぬ先輩・松岡享子さんの３回忌である。